

平成 29 年度第 2 回鎌倉市食育推進会議 会議録

日 時：平成 29 年 10 月 30 日（月）18 時 30 分～20 時 00 分

会 場：鎌倉市役所第 4 分庁舎 822A B 会議室

出席者：＜委 員＞中村会長、中谷副会長、有村委員、安齋委員、河原委員、
富田委員、牧田委員、メタ委員、横塚委員

＜職員等＞食育連絡協議会（庁内）

福祉総務課長、産業振興課長、こどもみらい課担当課長、
保育課長、青少年課長、高齢者いきいき課担当課長、
ごみ減量対策課担当課長、学務課長

教育総務課担当課長、教育指導課長、教育センター所長
小学校代表校長、中学校代表校長

事務局（市民健康課）

石黒課長、河合課長補佐、三島係長、長谷川職員、浦山職員、
齋藤職員

傍聴者：1 名

配付資料：

【資料 1】第 3 期鎌倉食育推進計画素案（10 月 17 日現在）

【資料 2】逗子市 食育に関するアンケート設問項目

【資料 3】第 2 期鎌倉食育推進計画指標及び評価、第 3 期鎌倉食育推進計画
指標

【資料 4】第 3 期鎌倉食育推進計画策定スケジュール（平成 29 年度）

■開会

石黒課長から委員 11 人のうち出席者は 9 人で過半数を超えているため、本推進会議条例施行規則第 3 条第 2 項の規定により、会議は成立している旨、説明がなされた。

中村会長から委員会を傍聴するにあたっての注意事項、録音・録画・撮影不可、提供資料の持ち帰り可の旨を説明がなされた。

中村会長 挨拶

未病サミットというものがあり、国際会議で未病をどう考えるか、どう指導するかなどの意見が議論された。

一番印象深いのは、高齢社会というのは病気を予防・治療するだけではないということである。高齢者は病気を治すという領域ではなく、病気とどう付き合っていくか、一番大事なことは、その失われていく機能をどう維持していくかである。

病気を治療するという従来モデルから、失われている機能をどうやって維持するかという方法に転換しなければならない。

加齢による各身体機能の低下は病気と直接関係するものではないが、病気の有無や加齢に関わらず、それらの身体機能を維持し、質の高い日常生活を送ることを目標にすべきである。

■議事

1 アンケート結果について

事務局から、以下（１）～（４）の順に説明がなされた。

(1) 配布資料の確認

事務局から、配付資料【資料１】～【資料４】の確認がされた。

(2) 前回迄の会議内容の振り返り

前回の第１回目会議で、食育アンケート結果の数値の出し方に誤りがあったが、今回の配布の【資料３】は正しい数値に修正している。

また、計画の骨子について議論でいただいた意見をもとに第３期の素案を作成していく。また、具体的な取組みへの意見に対しては、今後の取組みを推進していく際に再度検討していく考えである。

(3) アンケート結果の説明

【資料１】から素案の内容について前から順番に説明。

- ・表紙のデザインについて、表紙のラフ画ができあがり、実際は写真になるが、現段階ではイメージをイラストで表現したものを委員の方に確認していただく。「いただきますとごちそうさまの間にある大切なこと。」というキャッチコピーを生かすシンプルなデザインで、濃いピンクと赤の間のような色の子ども用のお茶碗、おはし、はしおきを素材にしている。今回はラフ画の提示のみであるが、パブリックコメントには間に合うように準備をしている。
- ・表紙をひらいて、はじめに、目次の次に【食育とは】と【本書の読み方】を追加。
- ・１ページからの第１章では、計画の概要や食育アンケートの実施方法等を掲載。
- ・３～７ページには食育アンケート結果を掲載。
- ・８～１０ページには平成 27 年 3 月に実施した「鎌倉市健康づくりについて

の意識調査から」食に関する部分を抜粋して掲載。

- ・ 11 ページには健診結果から算出した BMI について掲載。
- ・ 12～15 ページでは、第 2 期鎌倉食育推進計画の施策と成果として、指標、計画策定時の食と健康に関するアンケート調査からの数値、直近値として平成 28 年 9 月～平成 29 年 5 月に実施した食育アンケートからの数値、第 2 期計画の目標値を並べており、改善状況の欄には目標値を達成したものを「A」、一部達成したものを「B」、達成しなかったものを「C」として表記。

下には数値の踏まえての課題や、この 5 年間まとめてきた実績報告の結果を踏まえての課題等を掲載。

12～15 ページの表の中の計画策定時の数値、及び直近値の数値について、アンケートの質問項目が異なる点があり、単純な比較ができない数値については、【参考】と記載。また、年代ごとにアンケートの質問項目は異なり、それらがこの表からは読み取れないため、追加の表記を検討している。【資料 2】と【資料 3】について、【資料 2】は逗子市食育推進計画に掲載されている、逗子市食育に関するアンケート設問項目。このような形で、【資料 3】にある第 2 期計画策定時の質問項目及び直近値の質問項目の部分を一覧にしたものを資料として追加してはどうかと考えている。

【資料 1】に戻り、

- ・ 15 ページ下の成果と課題のまとめでは、第 2 期計画の成果として、
 - ◎ 5 年間の取組みにおいて、目標値に一部達成したものもあるが、数値としては横ばいや下がったものが多くあった。
 - ◎ 食育の関心は高くなっているが、個人の行動変容までには至っていない。
 - ◎ 特に 20～30 歳代の食や健康に関する意識が低く、引き続きアプローチが必要。
 - ◎ 個々の行動変容を促す啓発も必要。等が挙げている。
- ・ 16 ページ：第 3 期計画の方向性では、
 - ◎ 第 2 期までの取組みの柱と基本施策を継続して実施しながら、指標の達成に向けて全体の底上げを図る。
 - ◎ 国の第 3 次計画の重点課題となっている視点も盛り込んでいく。
 - ◎ 健康づくり計画と整合性を図りながら進める。
 - ◎ 3 年間の計画であることから、数値の改善が図れるよう、重点項目を設ける。等を記載している。
- ・ 16 ページ下には、国や県の動向を記載しており、これらの視点も第 3 期計

画に盛り込んでいる。

・17～18 ページは、第3期計画の体系図です。左側から取組みの柱までは、第2期計画のままとし、基本施策では、「食と心身の健康づくりの推進」及び「食の3Rの推進」を重点項目としている。また、指標の文言については、前回の会議で出した案から、意味合いが変わらない範囲で、わかりやすい言葉や表現に変更し、主な取組み例では、市で行っている事業の一部を掲載。

・21 ページから 32 ページには、【一人ひとりができること】【みんなのできること】の提案、コラムの掲載、市の主な取組み等を掲載しています。一部 QR コードを掲載し、スマートフォンで読み込むと詳細がわかるページにリンクする作りになっている。

・27 ページ基本施策「3-2 地場産物の使用の推進」「3-3 食をとおした地域づくりの推進」では、これまでも生産者への感謝の念や、地元の産業への理解を深めること、食をとおして地域のつながりを深めることを目的として推進をおこなってきた。これらの指標は第2期計画では「地元産（県内産を含む）食材の使用割合の増加」となっていたが、生産量が限られていることや、全ての人が日常的に地元産食材を販売している店舗で買い物ができるわけではないことから、数値の改善は現実的ではないと考え、第3期計画の指標では「地元産や県内産食材（加工品等を含む）を意識して購入する人の割合」に変更している。

・30 ページのコラム 12 の中では、「未病センター」についての記載について詳細説明。「未病センター」とは、神奈川県が健康と病気の状態のことを指す未病を改善するための取組みのひとつとして、各市に設置を進めているもので、未病センターでは、骨密度、体組成、血圧、血管年齢、ストレス、血圧の測定、保健師・栄養士など専門職による相談、健康に関する情報提供などを行う。鎌倉市では、御成町にある、鎌倉市福祉センター1階の子育て支援センター事務所跡地に、来年の1月中旬ごろオープンする予定。

・33～34 ページでは計画の推進体制や評価方法を掲載。

・35 ページでは、第3期計画の指標一覧を掲載。

・36 ページでは、計画策定のための体制と経過として、食育推進会議の開催状況と次のページに委員名簿を掲載。

・37、38 ページの鎌倉市食育推進会議委員名簿には、委員の方からのコメントを掲載したいと考えている。事前の資料を送付した際にご依頼しているとおりに、普段取組まれている、食や食育の取組み、食育への思いなどを後日提出いただきたいと思っている。

・39 ページからは資料となる、法律や条例を掲載。

素案についての説明は以上である。

【質疑等】

牧田委員

今後こういったところで冊子が閲覧でき、どういう方達をご覧になるのか。
冊子の配布方法や、合計数などはどのようなになるのか。

事務局

カラー版の印刷数は、本年度 300 冊、来年度 500 冊の予定としている。

具体的な配布場所については今後検討していくが、教育機関・私立の保育園や幼稚園など食育に関するところに配布をしたいと考えている。また、個人にも行き渡るように町内会や市民団体のところなどで健康教育をさせていただく機会があるので、そちらでも配布をしていきたいと考えている。

市民の方には特に具体的な取り組みが記載してあるページを抜粋して印刷したものを配ることも考えている。なるべく多くの方に読んでもらいたいという思いである。

中村会長

これはインターネットには載っているのか。

事務局

策定した後は鎌倉市のホームページに掲載する。

牧田委員

ボリュームがあるものなので、21 ページから 33 ページ辺り A3 両面くらいの概要版のようなものをもし作成可能であれば、多くの方に見てもらえることができる。第3期計画がはじまったということが、はっきり市民の方に分かるようになると思うため、是非作成の検討をしていただきたい。

中村会長

多くの方は、自分は食事のどのようなことに気を付けた方がいいのかということが知りたいのだと思う。統計的な数字等よりも自分自身の問題として、簡単なパンフレットでいいと思う。多く配付した方がいいのではないかと。

安齋委員

ふらっとカフェとは、鎌倉市はどこにあるか。

事務局

ふらっとカフェは、市内のいくつかのお店で月に4回程度行なっている。定休日等を活用しているため、一ヶ所ではない。

場所によっては、一緒に食べるだけでなく、一緒に作って食べる場所もある。また、子ども食堂は対象が子どもやその保護者だが、ふらっとカフェは子どもからお年寄りまで誰でも来れる場所である。

安齋委員

こういうもののニーズはあると思う。

有村委員

30 ページのはじめの環境づくりというところで「ひとりひとりができること」の項目に「栄養成分表示をよく見て買う」と「食品表示の見方を知る」とが書かれているが、食品表示の中に栄養成分表示も入っている。先に食品表示というものの自体をよく知っていただくというところを先に持ってきて、その後、実際どのように活用していくのかということによって栄養成分表示をよく見て買うという順にした方がよい。

実際に食品表示の中にそういった項目があるが、特に栄養成分表示というところを出しているところは、非常にありがたい。

労働者健康づくりのところで、塩分控えめの食事を心掛けるという中に、加工食品では食塩使用量をよく見て買おうという部分で、栄養成分表示を確認していただくという部分に繋がっていくと思う。

中村会長

35 ページの目標値は、どのような設定の仕方か。

事務局

国の目標値を参照している。国と比較した時に現状値の方が上回っているものはそれよりも少し高くしているという設定である。

中村会長

このような目標値を決める時に整数の1桁を10か5にした訳であるのが、例えば「ゆっくりよく噛んで」の部分で55%を60%にしてはどうか。

理由は、その部分の高齢者の現状値が56%であり、現状値が目標値よりも低くないのはどういうことかということもある。60%にした方がいい。

牧田委員

「ゆっくりよく噛んで食べる」というのが他の目標値と比べて低い。特に現状値の中学生や高校生がすごく低い。

市の広報にて、中学校の給食を開始したことが周知されていたが、中学校のお子さんがある方に話を聞くと、給食・お弁当の時間が15分しかなく、ゆっくり食べられず、量が多い訳ではなく、時間が短いせいで皆残してしまう、お弁当も十分食べきれないと言っていた。

ゆっくりよく噛んで食べることが中学・高校を通した健康づくりの大切な一因を担っているにも関わらず55%の目標はいかがなものか。

改善する余地があることも検討していただきたい。

安齋委員

中学校は配膳も含めて20分と聞いた。食べる時間がないからと、お弁当を選択する人もいると思う。

富田委員

保育園でも配膳から片付けまで含めて1時間くらい食事の時間を取っている。しかし、年長になると小学校就学を控えているため、あまり時間を掛けずに食べることをどうしても進めている。そして、小学校に入ると給食の時間は10分と聞いているので、それに合わせて、よく噛んで食べるのだが、あまり遅くならないように、この時間内で食べましょうということ始めているのが現状である。

できれば小学校・中学校の食事の時間というのをもう少し考えてもいいのではないか。

また、資料のことだが、QRコードが入ったのはすごくいいと思う。

中村会長

日本では、朝食ばかりに焦点を当てているが昼食について、ヨーロッパの人は昼食に2時間掛ける。やはり昼食の形式、仕事の仕方を1時からではなくて2時くらいからやるというのを社会全体で考えた方がいいと思う。

地中海食が健康にいいという話があり、最近地中海食の何がいいかという論文が出た。地中海食で一番心臓病予防になった効果は、2時間掛けてゆっくり食べているということであったとわかった。ゆっくり食事を食べるというのが、心臓病予防に貢献していたのではないかという話が出ていた。

日本人の今の食事全体を見ての問題点や改善点は次のとおりある。

- ① 食物繊維の摂取量減少について

食物繊維摂取量が、ここ 10 年程度で半分くらい減少している。便秘の人が多くなり、大腸がんが増えている。食物繊維摂取量を増やすことは重要な課題である。

② 減塩について

食塩の摂取量はここ数年間減らなくなった。これはWHOなど世界的傾向である。食塩摂取量5グラムにするのが適切であり、高血圧・心臓病が半分くらいになり、それによって医療費が相当抑制できるという。しかし、これ以上薄味にしようとするのは無理であろうという話になった。1つのヒントは5～6年前にイギリスで行った実験である。イギリス政府が食品メーカーを全部集め 10%食塩を減らすという強制的に国から企業に指示を出した。企業側は塩を減らすと商品が売れなくなると反発したが、イギリス政府は、今すぐ 10%減という意味ではなく、3年間掛けて国民が気付かないように減らすよう指示した。86 品目の3年間の減塩計画目標を企業に作らせ、国民が知らないうちに減塩になっていた。それによって膨大な医療費が抑制できたという論文が今年発表された。また売り上げも逆に上がったということもある。今世界中の行政政策の中に、国民が知らないうちに減塩していこうという傾向にある。

人間には味覚の閾値というものがあり、ある幅で減らしていけば気付かない。そして1回味覚は薄い味に慣れてくると、それで平気になり、数ヶ月すると慣れてくる。

③ カリウムの摂取量の減少

カリウムは野菜・果物に多く含まれている。高血圧を予防することにつながるが、現状、カリウムの摂取量は目標値の半分程度である。

④ 肉と魚の消費量の逆転

かつては、欧米人は肉を多く食べて、日本人は魚を多く食べると言われていたが、3年前から日本人の肉の消費量と魚の消費量が逆転している。

河原委員

うちではしらすを獲っている。魚は骨がいやだ、食べづらいとの声ある。

牧田委員

ファストフィッシュ運動が何年前前にあった。食べやすい魚・魚料理を推進するような運動があった。やはり、全体の消費量はどんどん少なくなっている。日本では肉の消費量と魚の消費量が逆転したとおっしゃいたが、例えば中国や、ヨーロッパ等でもほとんど魚に対する需要が伸びていて、漁場を脅かしているようなところもあるような気がする。日本だけ少し、その流れと反対の方向に行くのはとても残念だと思う。

事務局

魚がなかなか売れないという意見は以前の会議の中でいただき、27 ページのところに、魚のさばき方がわかるような形でコラムを載せている。

まず朝市の宣伝ということで、鎌倉漁協さんと腰越漁協さんが行っている朝市のことを掲載している。また、神奈川県ホームページに掲載されている神奈川で採れる魚や貝類のさばき方のページにリンクするようになっている。包丁を使わずにいわしの背開きもこちらに記載するので、配布をする時にできるだけ、具体的などころを伝えて行きたいと思っている。

中谷委員

ガスレンジに魚グリルがないおうちも増えている。焼き魚はハードルが高くなってきているかもしれないので、煙が出ず、洋風な調理法も必要かもしれない。

目標値についてだが、青壮年期と高年期が一緒になっているものが多いが、事業の切り口も違うだろうし、分けてもよいと思う。

牧田委員

表紙についてだが、食育のイメージという主食・主菜・副菜がそろった食事という感じがするがいかがか。

メタ委員

キャッチコピーにはどのような意味が込められているのか。以前にスーパーで、牛乳をさかさまに置いて、興味をもってもらうような売り方をしていたところがある。興味を持ってもらうということであればこれもよいと思う。

中村委員

3割は興味があるが、7割は興味がない人たち。その人たちにいかに訴えるかも大切だ。

■事務局よりの案内

【資料4】について、本会議での意見をもとに計画の素案を再度作成し、追加ご意見等がある場合は、事前に送付してあるご意見シートに記入し11月13日までに送付をお願いしたい。パブリックコメントでのご意見とあわせ、最終素案にもりこんでいく。

パブリックコメントについては12月15日の広報で案内し、12月22日～1月22日まで行う。次回会議で、パブリックコメントでの意見を反映した最終

案を確認していただきたい。

次回会議は平成 30 年 1 月 26 日 18 時 30 分～市役所 402 会議室にて開催予定
である。

【質疑等】

なし

■閉会

閉会の挨拶